



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

平成28年度 第2回不登校支援担当者研修会

日時：平成28年8月17日(水)実施

対象：高知市立学校不登校支援担当者・高知市立学校参加希望職員

目的

学校内において、不登校の予防・対応に組織的に取り組むためのリーダーとなる教員の資質向上を図る。

「学校における効果的な実践事例」

講師：臨床心理士 濱川 博子 氏

「自分の感性のアンテナをぴんと立てておく」



相手のかすかなサインに気付くため

学校の組織力を生かしたカウンセリング機能の充実を図るには

【組織】＝支援会

- ・ コーディネーター
- ・ 学級担任
- ・ 学年団
- ・ 生徒指導主事
- ・ SC
- ・ SSW
- ・ 養護教諭
- ・ 管理職
- ・ その他



多面的に
子どもを
見立てる
ための
メンバー
構成

見立て

- (1) 生育歴
- (2) 発達障害の二次障害
- (3) 心理的外傷（トラウマ）
- (4) その他

[カウンセリングマインドに基づく]
・ 児童生徒の内面の理解
・ 児童生徒の背景の理解



手立て

- 環境調整
- 指導的対応（父性的）
- 支援的対応（母性的）

- ・ 対応の共通理解
- ・ 役割分担
- ・ 振り返り，見通し，共有
- ・ お互いの支え合い

※ 見立てがとても大切。児童生徒の内面や背景を理解するだけで相手への表情・態度が無意識に変わる。

「さまざまな場面で活用できる解決志向アプローチの手法」

講師：高知大学 金山 元春 准教授

人間関係とは相互作用



→ うまくいっているときも，うまくいっていないときも人間関係は
お互いがつくっている
うまくいかないとき，相手が変
わってくれたらと思うってしまう



自分の方が「ものの見方」を
変えてコミュニケーションを
工夫する

さまざまな解決志向アプローチの手法

○ 例外探し

問題が起らなかった時には，どのようなリソースがあったかを探す「問題が起ってもうまく対処できたときにはないか」「問題が起らなかったときにはないか」「5日のうち3日休んで2日登校→登校できた2日に注目」

○ 成功の責任追及

うまくいったときこそ責任を追及する

○ OKメッセージ（コンプリメント）

見付けたリソースを相手に返す

○ スケーリングクエスチョン

0（できる）か1（できない）ではなく，1から10までのものさしでどれぐらいか考える（小さな変化に気付くことができる）

○ コーピングクエスチョン

大変な状況で，どうやって投げ出さずにできたのか，対処の仕方を尋ねる



【受講者の感想】

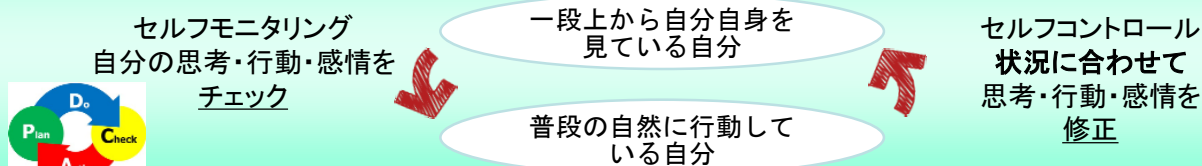
- ・ 子どもたちの言動の背景を読み解くことの大切さを学ぶことができた。「誰も悪くない，方法が合っていないだけ」という言葉が印象的だった。縦と横，そしてチーム学校として連携を図り，一人ひとりの子どもたちの理解に努めていきたい。
- ・ 解決志向アプローチの実際の関わり方（児童や保護者への）がよく分かった。光が見えず困難なケースに出会ったときにも，未来像を見据え，リソースを見付けて解決していけると分かったことで，自分自身の気持ちも楽になった。

課題等研修「学級経営の実践交流」 ― 初任者研修・3年経験者研修 合同開催 ―

講師：高知市立西部中学校 教頭 吉本恭子 先生

概要 学級経営の実践交流を通して、学級経営の基本的な在り方について研修し、教員としての指導力向上を図る。

学級経営に対する自己調整力(⇒メタ認知能力)を身に付けよう



実践交流

― 実践をチェック・修正し、2学期からの実践につなげよう ―

(3年経験者「シミュレーションシート」一部紹介)

一つに絞った課題

- 些細なことでトラブルになる (男子)
 - 仲良しのグループが固定化している (女子)
- 関わりたいけれどもうまく関われない状態

具体的行動レベルでのゴールイメージ
友だちの頑張りを認め合う

具体的な行動で
方策を！



実現のための教師のアプローチ

- 学級活動の時間を使い、全員が協力して達成できた!という経験を増やす。
- 児童同士の関わり合いを深めていくために、意図的にグループを構成し、活動や具体物で児童同士が関わるようにする。
- クラスのなかで増やしていきたい言葉を集める。そして、その言葉がけができていた児童やどういった場で使うことができたかなどグッドモデルを示すことで、より児童同士が声をかけ合えるようにする (行動を評価する) 等

【受講者の声 (研修の記録から)】

- ・ 交流を通して、さまざまな課題に先生方がどのように対応してきたのか具体的に取組を聞くことができ、とても学びの多い時間だった。授業だけでなく、学級経営においても常に明確なゴールイメージをもつことが大切だということに改めて感じた。
- ・ 構成的グループエンカウンター等の活動も、ただおもしろいや楽しいだけで行うのではなく、子どもたちにどうなっているのか、何を得てほしいのかを伝えることも大切だと知った。
- ・ 3年経験者の方との交流を通して、学級経営の技法だけでなく、子どもたちとどう関わっていくのか、教師の人間性についても考えることができた。
- ・ 初任者の方が悩んでいることが自分の1年目の悩みと同じであったため、当時を思い出し、研修や諸先輩方から学んだことを伝えることで、今後も指導力を高めたいと思った。



全てのスタートは子どもとの信頼関係から

できていることはぜひ続けて！変えられる行動は今すぐ修正を！



チェックして
みよう

- 例
- ☐ 頭ごなしに叱るのではなく、叱る理由も話している
 - ☐ 悪いことをした時は、きちんと注意している
 - ☐ 子どもが以前と比べてよかった所を伝えている

出典：
『学級経営ハンドブック
(中学校) 巻末資料No20, 21
信頼感チェックシート』抜粋

実践を変えるヒントの提案

人間関係づくりの手法を効果的に活用！

教師の自己開示と視点共有メッセージによる活動への動機づけがポイント！

「今ここでの気持ちを語る」 (自己開示)

- ・ 自分に関する事実(経験)を話す(どんなことがあったのか)
- ・ 自分の感情を話す(どう思ったか)
- ・ 自分の価値観、感じ方を話す(どう考えているか・どう感じたか)

Iメッセージ (= 「わたし」を主語として気持ちを述べる手法) で伝えると相手が気持ちを受け止めやすくなる。

うまい先生は何が違う！？

- 1 明確なゴールイメージをもっている
- 2 自然な自己開示ができています
- 3 ルールと基本的な進め方が分かっている

シェアリングは、「感じたこと」「気付いたこと」の共有の場。評価やまとめはしない。

《「語り」で決まる活動への動機付け》

- ① なぜこの活動をするのか
- ② どんなことをすればいいのか
- ③ それをするとどんなことが得られるのか

さまざまな子どもの状況に
寄り添う視点共有メッセージ
と自己開示の要素を加えて
語りかけることが大切！

